

私は、はじめ新聞はただかいていんさつするだけと思
っていたけど大事なことは一番目立つ位置アタマにかいたり
することなどをはじめと知りました。新聞は日常的に
あるけどとくによんだことがないのでよんでみようとおも
いました。

記者の三好^{みよし}さんがわかりやすく説明してくれたので私も
「目」と「耳」と「心」で聞けました。

神戸新聞ではたくさんの方の力で新聞を作、
ています。取材、デスク会議、編集、広告制作、
刷片反、印刷、発送、販売まで、すべて神戸新
聞がかんせいします。すごくたいへんです。
ここで記事の書き方の基本です。基本は「5W1H」
When (いつ)、Where (どこ)、Who (だれが)、
What (なにを)、Why (なぜ)、How (どのように)を使
い新聞をつくっています。他にも正石憲で簡潔
であること、分かりやすい言葉で書くなどがあります。
思っていたよりすごくたいへんな仕事です。
あと最近の新聞はスマホで見れる新
ようにもなっていてとても便利になっています。
新聞は皆さんの生活に届けてくれるかけ
がかりの媒体です。

新聞主し協がWHOの工夫
をしていることがわかって
上がった。

ほかにもいろいろな工夫をし
ていることがわかった
ほかは新聞にあん
まりきょうみがないことがわ
かったけどこのおもしろさを
感じて、早速きょうみを
もつことができた。

時間があるときは
少し新聞をよんでみよ
うと思う。

ほかにもよくしよのときに新聞
に近づいていこうと思った。

いつ・どこで・だれが・なにを・なぜ・どのように
という5W1Hを意識して文章をかいていると
聞いて、私も文章を書くときに参考にして
みようと思いました。新聞を販売するた
めにたくさんの人たちが協力していると知
りました。また、神戸新聞ができるまでこんな
にたくさんの方を起しているとは思いません
でした。新聞社の方のお話を聞いても
っと神戸新聞についてくわしく知りたい
と思いました。また、新聞をあまり読んだこ
とはなかったけれど気になる記事があれば
読もうと思いました。

たくさんの人により正確な情報を伝えるため新聞には

いろいろな工夫があることを知ることができました。とくに、

神戸新聞は、読みやすく、分かりやすさを重視していました。

子どもでも分かる言葉がわり、文章も長くなくてたれでも

読むことができます。次に絵や写真です。絵や写真がある

ことにより、その場所の状況がより分かりやすくなって

います。また、絵や写真だけでなく、グラフをのせると変化の

読みとりが容易にすることができます。つづいて、レイアウト

についてです。新聞は大きく分けてトップ、カタヘン、右足不足

広告の6つでできており、トップにはこの日の一番のニュース

カタには、二番目のニュースがのっています。このように

新聞にはさまざまな工夫がされています。新聞社の方の

お話を聞いて、いままで捨てていた新聞に少しでも

目を通してみようかなと思いました。

僕は、新聞社の方のお話を聞いて、とくにす
ごいと思ったのが、新しくきたニュースをゆめきり
10分前でもきじに入れることです。いらないところ
をけすって、すぐに新しいニュースを入れるのが、とて
もすごいと思いました。次にすごいと思ったところは
記事の書き方です。5W1Hというもので、when(い
つ)、where(どこで)、who(たれが)、what(なにを)
why(なぜ)とhow(どのように)があります。その中
でも、なぜとどのようにがなかったら、とても文量
が減ります。それから文章でも分かりやすい言
葉で書かないとだめなのもすごく大変だと
思いました。それから、毎日書かないとダメ
だから、休みもないので、毎日大変だと
とても思いました。それから、印刷でも、毎日、
新聞用紙を一日におよそ80本もつかわ
れているのもすごいと思いました。新聞社の
方のお話を聞いて、初めてしたことかとてもあ
たのびとてもいいけいけんになりました。

わたしは、親新聞社の方のお話を聞いて、
神戸新聞ができるまで、記事の書き方、
印刷の話などを教えてくれました。
その中でもわたしは、「記事の書き方」と
「印刷の話」が心に残りました。

「記事の書き方」には「5W1H」という
基本があり、When(いつ) Where
(どこで) Who(だれが) What(なにを)
Why(なぜ) How(どのように)の
6原則を正確に取材したうえ、特に
重要な点をとり下げて取材、執筆を
しているそうです。「印刷の話」は、神戸
親新聞では三つの製作センターを合わせ、
1日に約80本を使うそうです。また、
40ページの朝刊なら1時間に9万部が
刷れるそうです。またきかいがあれば、
親新聞社の方にお話をもっと聞きたい
です。

記事には、必ず「5W1H」がのっている、とい
うことを聞いて、他の新聞を読むときに、
意識して見たいなと思います。また、「5W1H」の
中でも、「Why」と「How」が特に大事と言っていた
ので人に情報を伝えるときに、使ってみたいです。
一枚の写真が、100行書いた文章よりも多くの情報
を伝え、分かりやすく、説得力があるので、
写真の大切さも知りました。自分でも見てみると、
写真があると、その時の様子、人のその時の行動
がよく分かりました。

新聞は、その情報にも気をつけながら、
夜にあつた出来事を朝までに完成させることは、
大変だと思いました。また、レイアウトにも気をつ
けて、トップに目立つものをのせたりと、たくさんの
工夫をして、いねいに、時間をかけながらつくっ
ていくことを改めてしっかりと分かりました。
印刷をした後に、1つ1ついねいにかくにんしていて、
安心して読むことができるなと思いました。

普段、何も考えずに読んでいた新聞が、沢山の工程を経て届く。それも時間通りに。と思うと、身近な物のおく深さを実感します。一部一部の新聞、一つ一つの記事に多くの人が関わっていること今日始めて知りました。「5W1H」、レイアウトのルール（トップ、準トップ、真ん中、左下右下など）、など様々な工夫がなされていてすごいと思います。他に、メルの10分前に取り上げられたニュースものせてしまったり、など、おどろくことも多々あったりしました。最近のニュースの新聞を読み合って、いろいろ新聞の工夫を探し出したり、「神戸新聞が出来るまで」という動画を見たり、すごく勉強になったなと、思いました。

(初めて知った事)

- ・新聞をいんさつする機械のスピードが、
とてもはやい。

- ・自分の案がさいようされなかったりする

- ・新聞もたくさん印刷するから紙はせたいハズだけど
その紙はもともとトレットペーパーのようにまかれて

いる 

(考えた事) または、(不しぎに思った事)

- ・たくさんの紙を使っているのにどうしてこの世界が
紙不足にならないのだろう

- ・新聞の内容は、すべて全部あっているのだろうか
なぜ新聞はインクを使わないのだろうか

(すごい!と思った事)

- ・きかいのそうさの仕方をおぼえていること

- ・アイデアがたくさんあること

- ・新聞で「おかしい文」のようなところを確認している
ふしだわ

私は、話しを聞いて、一木又の新聞を作るのに、色んな手間がかかるんだなと思いました。新聞を作るには、取材、本社、デスク、会議、系編集、広告、制作、刷片版、印刷、発送、販売店と、私たちの元にとどくまで、これだけの手間がかかっています。記事を書く時は、「5W1H」と言う、¹When(いつ)、²Where(どこで)、³Who(だれが)、⁴What(なにを)、⁵Why(なぜ)、⁶How(どのように)を使って、正確に取材をする。わかりやすい言葉で書き、ニュース性の高い要素から先に書く。日時、名前、固有名詞は再確認する。

私は、新聞社の方からの話を聞いて、新聞を作るときはいろんなふうをして作っていることが分かりました。例えば、短かくて分かりにくい文ではなく、くわしくかかれた文だったり、新聞1枚でいろんなニュースを載せて、写真の大きさにもくふうしていたところでした。

ほかにも工夫していたところはたくさんありました。新聞を作るときはたくさんの方が協力し合って作っていることを知りました。ネットばかりを信じずに直せつ話を聞いて新聞を書くことが分かりました。「トップ」、「準トップ」、「真ん中」、「右下」、「左下」でいろんなニュースを分けるのはすごくむずかしそうでした。

5W1Hで重ようなものは何かを考えたりすると分かりました。私は新聞を作るのにすごく大変だと分かりました。

新聞社の方のお話を聞いて神戸新聞を作るのはいいと必ずかしいことがわかりました。記事の書き方には(いつ) (どこで) (だれが) (なにを) (なぜ) (どのように)を正確に新聞にしている工夫をはじめで知りました。インタビューでも一番ニュースをここに何とかか決めていっているのをばいりしました。印刷の話を書いて40ページの朝刊なり1日間に9万部もオフセット輪転機は印刷される時も、ものすごいはやさで印刷してるんだなと思いました。このことから新聞社の人はいろんな工夫をしていると分かりました。